

# 第1編

## 第1章

### 富谷で働くことにやりがいを 実感できるまちを創ります

- 1-1 商工業・雇用  
多様な労働機会に恵まれた市民の希望が活きるまちづくり
- 1-2 起業支援  
起業へのチャレンジ精神を活かし支えるまちづくり

## 第2章

### “とみやシティブランド”で 自慢したくなるまちを創ります

- 2-1 農業  
新たな誇りを育む特産づくり
- 2-2 商業・観光  
未来につなぐ“面影”づくり
- 2-3 観光・地域振興  
“とみやシティブランド”の全国発信にみんなで動くまちづくり

## 第3章

### 安全で自由に移動できる 便利なまちを創ります

- 3-1 公共交通  
あらゆる立場・世代の方々でも安全で自由に動けるまちづくり
- 3-2 道路  
日常の利便性を安全で快適な道路でつなぐまちづくり

## 第4章

### 住み心地の良さを実感できる 豊かなまちを創ります

- 4-1 土地利用  
豊かな自然を守りバランスの取れたまちづくり
- 4-2 住宅・公園・上下水道  
住み心地の良さを感じる居住環境を誇れるまちづくり
- 4-3 自然環境・公園  
緑豊かな自然環境を守り次世代に継承するまちづくり

暮らしを自慢できるまち！



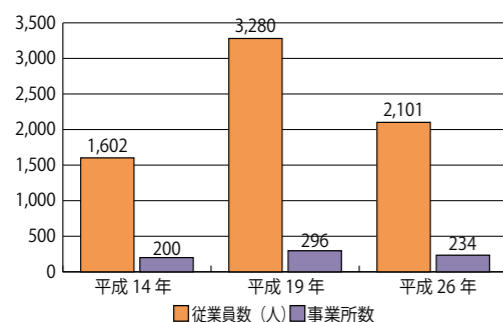
# 富谷で働くことにやりがいを実感できる まちを創ります

## 1-1 商工業・雇用

### 現況と課題

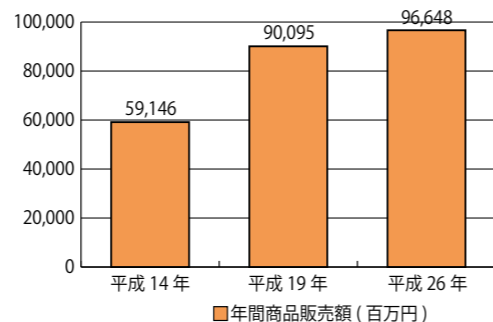
- 商店数は、平成19年と比較して平成26年には減少しており、従業者数も減少しています。
- くろかわ商工会富谷事務所を核として、市内企業に対する支援活動や市内企業の交流活動などへの支援が行われています。
- 工業の事業所数は、平成24年以降は、ほぼ横ばいの傾向で推移しています。
- 仙台北部道路の全線開通に伴い、仙台都市圏の工業生産拠点としての更なる発展が期待されています。
- 平成28年には、高屋敷地区工業用地の造成も完成し、更なる事業所の増加が見込まれています。
- 富谷市シルバー人材センターでは就業機会の提供のみならず、創意工夫による独自事業も展開しています。
- ライフスタイルの多様化などにより、住民ニーズに的確に対応した労働環境を、身近で確保することが求められています。

商業の状況



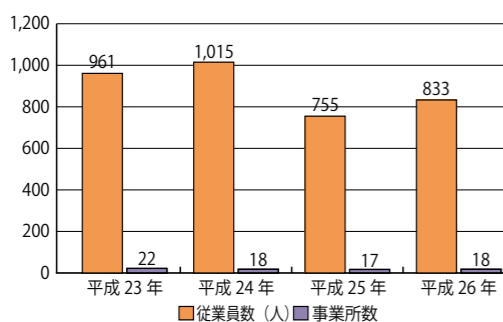
資料：商業統計調査（各年6月1日現在）

年間商品販売額の推移



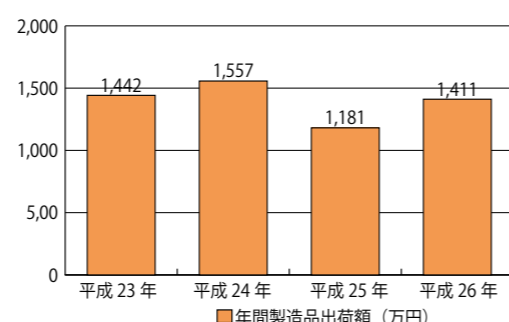
資料：商業統計調査（各年6月1日現在）

工業の状況



資料：工業統計調査（各年12月31日現在）

年間製造品出荷額の推移



資料：工業統計調査（各年12月31日現在）

### 施策目標

多様な労働機会に恵まれた市民の希望が活きるまちづくり

### 施策方針

- 多様な企業の誘致を推進し、雇用機会の拡大、就業環境の整備を図ります。

### 施策内容

#### 1 企業誘致の実現による新規雇用の創出

最重点プロジェクト

- 本市の立地環境や企業立地促進奨励金などの支援制度を積極的にPRし、大学や企業、国や県等に働きかけながら、高屋敷工業用地等への多様な企業の誘致活動を進め、市民の雇用機会の拡大を図ります。
- 成田二期北工業用地については、宮城県と連携しながら、積極的な誘致活動を展開し、企業立地の早期実現を目指します。
- 企業立地セミナー等を積極的に活用し、誘致活動を展開していきます。
- 企業の進出意向を確認しながら、新たな受け皿となる新規工業用地の整備について検討します。

#### 2 就業環境の整備推進

- インターンシップ制度受け入れ企業の推進を図り、新卒の市内就職希望者や転入希望者等が、労働環境や労働条件等に不安なく就職・転職できるための環境整備を推進します。
- 企業経営者に積極的に働きかけ、女性の正規雇用枠の拡大を図るとともに、子育て中の女性が、無理なく仕事と子育てを安心して実現できる環境整備を推進します。
- ハローワーク等と連携し、求人情報を効果的に提供し、雇用相談等に的確に対応します。



### 3 | シルバー人材センターの充実強化

- 高齢者の生きがいづくりや健康増進、安定収入の確保による元気な社会の構築に向けて、高齢者世代の軽労働やボランティア活動の促進を図る方策のひとつとして、富谷市シルバー人材センターの機能・設備の充実強化を推進します。



### 4 | 商工業者支援に向けた組織体制の強化

- 市内中小商工業者の育成、経営改善等の指導の役割を担う、くろかわ商工会の充実を図るための支援を行います。
- 企業誘致や雇用促進への取り組みに向けた庁内組織体制の充実強化を推進します。

#### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 31 年)
新規誘致・操業企業数	- 社	5 社以上
新規雇用者数	- 人	800 人以上
新規雇用者数のうちの女性雇用率	-%	30%以上



企業の立地が進む高屋敷地区 (2016年8月撮影)



軽労働やボランティア活動を行うシルバー人材センター会員の皆さん

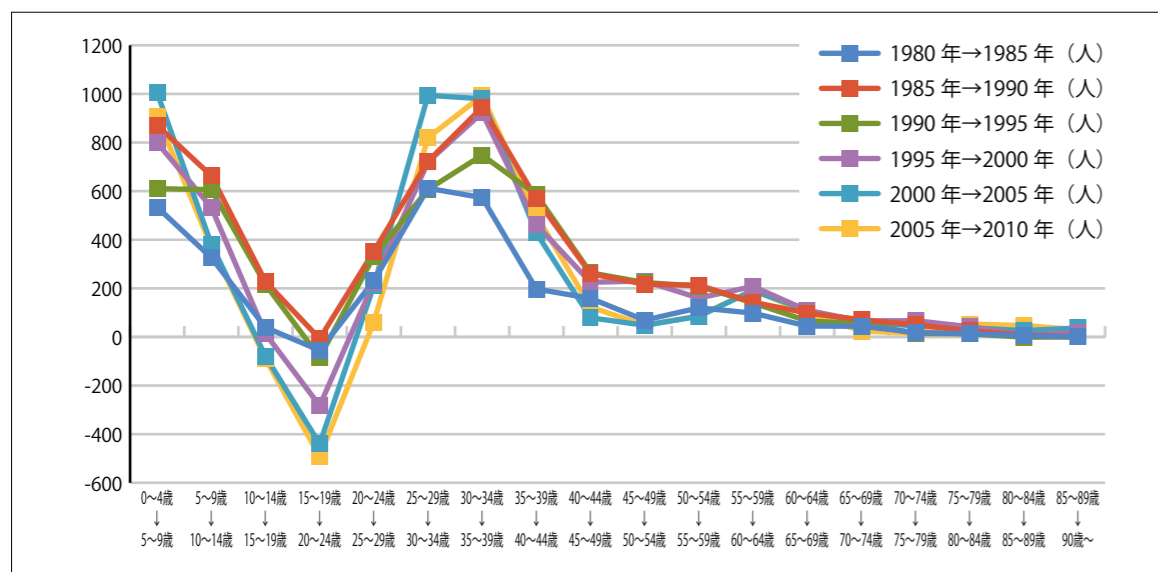
富谷で働くことにやりがいを実感できるまちを創ります

### 1-2 起業支援

#### 現況と課題

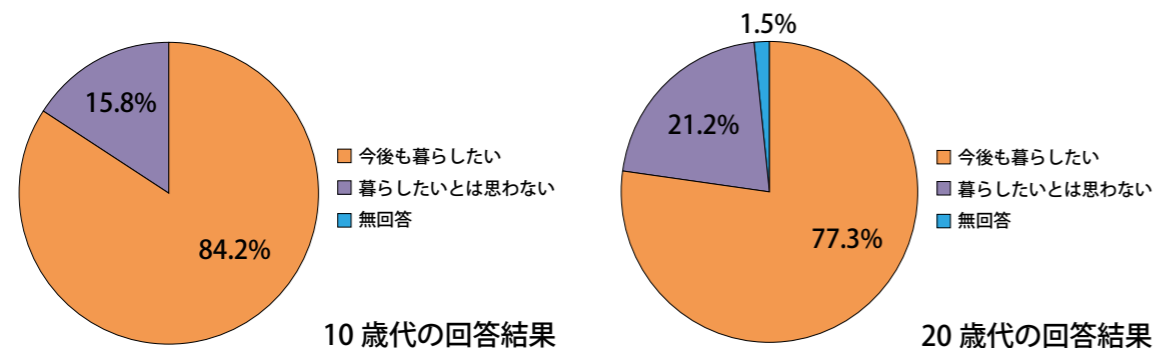
- 本市では、10代後半から20代前半までの若い世代が市外に転出している傾向が続いており、その傾向は拡大しています。
- 住民アンケートの結果では、多くの若い世代が継続的な居住意思を持っています。
- 産業構造が大きく変化し、価値観や働き方も多様化していく中で、退職者や若者など多様な世代が、本市で起業・創業に安心してチャレンジできるサポート体制の一層の充実が求められます。

年齢階級別人口移動



資料：富谷市人口ビジョン

富谷市での継続的な居住意思



資料：富谷町まちづくりアンケート分析結果報告書

資料：富谷町まちづくりアンケート分析結果報告書

#### 施策目標

起業へのチャレンジ精神を活かし支えるまちづくり

#### 施策方針

- 起業・創業にチャレンジできるサポート体制を整備します。

#### 施策内容

##### 1 起業・創業にチャレンジしやすいサポート体制の整備 最重点プロジェクト

- 新規の企業や創業について、くろかわ商工会や市内金融機関、大学などの研究機関と連携をしながら適切な情報提供を行い、円滑な起業・創業支援を行います。
- 本市で起業・創業にチャレンジする際のサポート体制を備えた起業・創業支援の拠点となる施設の整備を進めます。
- 市内金融機関と連携しながら、中小企業振興資金等の利用しやすい体制を構築し、起業・創業への金融支援を行います。

#### 成果目標

指標	成果目標	
	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 31 年)
市の支援による起業・創業の実現	- 社	8 社以上

前期基本計画

前期基本計画

第1編

第1章

第1編

第1章



# “とみやシティブランド”で自慢したくなるまちを創ります

## 2-1 農業

### 現況と課題

- 農業を取り巻く環境は、都市化の進展と産業構造の変化に伴い、担い手の高齢化と後継者不足が深刻化しています。
- 農家戸数は、平成17年から平成27年までの10年間で、100戸以上減少し、農業従事者は、半減しています。
- 本市の基幹農業である水田農業は、担い手の確保・育成等を推進し、適切に維持していくことが求められています。
- 本市特産品のブルーベリーは、本市を代表する特産品としての更なるブランド化が期待されています。
- ブルーベリーに続く特産品の開発と、生産・流通の拡大が期待されています。
- 農業に対するレクリエーションニーズが高まっており、大都市近郊といった地理的条件を活かした、新たなニーズに対応する施策の展開が求められています。
- 農作物の安全性など安心な「食」への要望が高まっています。
- 地場産品の更なる販路の拡大に向けた取り組みが期待されています。

農業の状況

区分 年次	農家数(戸)				農業人口(人)		
	総数	専業農家	兼業農家		総数	男	女
			第1種	第2種			
平成17年	345	21	15	309	1,673	831	842
平成22年	300	31	21	248	1,376	687	689
平成27年	241	26	25	190	746	418	328

資料：農業センサス（各年2月1日現在）  
※総農家数については、自給的農家を除いて表しています。

### 施策目標

#### 新たな誇りを育む特産づくり

### 施策方針

- ブルーベリーの生産拡大とともに、新たな特産品の開発を推進します。
- 農業生産者に対するきめ細かい支援策の強化を推進します。

### 施策内容

#### 1 | ブルーベリーの生産拡大とブランド力の強化

- ブルーベリー生産者の協力のもと、各種のブルーベリーに関連した事業等の展開により、新規栽培者の創出を図り、ブルーベリーの生産拡大を推進します。
- 伊勢志摩サミットで各国首脳に振舞われた「富谷ブルーベリージュース」をはじめ、「富谷産ブルーベリー」のブランド力強化に努め、各種イベントでの活用等、積極的なプロモーションを行い、富谷ブルーベリーの全国展開を推進します。

#### 2 | 新たな特産品の開発促進

- 地域の農家や企業等との連携により、ブルーベリーに続く新たな特産品の開発を行います。
- 新たな特産品に関しては、栽培技術の向上と生産規模の拡大に取り組み、産地育成に向けた活動支援の充実を図っていきます。
- ブルーベリーをはじめ、新たな特産品を活用した「とみやスイーツ」の開発を促進し、全国への情報発信等、ブランド品としての価値を高めていきます。

#### 3 | 地産地消の推進

- 本市で生産された農産物を本市で消費することを推進し、農家と連携して学校給食や飲食店での地元農産物の活用ネットワークを広げるとともに、市内での直売スペースの確保や販売方法の拡充に努めるなど、地産地消の取り組みを積極的に進めていきます。

#### 4 | 農産物の付加価値化

- 新たな農産品や付加価値の高い加工品の開発の支援に取り組み、特産品の販売ルートの開拓や直売の実施、各種物産展への積極的な参加等を通じて6次産業化を促進していきます。
- 農業を通じた余暇活動等の新たなニーズに対応し、レクリエーション農園の拡充に取り組みます。
- 食育の重要性や食の安全に対する意識の高まりを受け、低農薬栽培や有機栽培等の付加価値の高い農産物づくりを促進していきます。
- 農業用施設の適正な維持管理を行い、優良農地の保全と有効活用に努めます。



#### 5 | 農業の担い手の育成支援

- 農業の後継者不足の解決に向け、担い手となる認定農業者及び新規就農者の育成・確保に努めるとともに、関係機関との連携により、集落営農組織の育成を推進していきます。
- 小規模農地の経営等、農業生産者が抱える多様な課題の解決に向けた、きめ細かな相談対応を充実させていきます。
- 担い手の経営農地を面的に集積し、農作業の効率化を図ります。

#### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 31 年)
新たな特産品開発数	- 品	1 品以上



農業生産者に対するきめ細かい支援策の強化を推進します



30年以上の歴史をもつ市特産品ブルーベリー



## 2-2 商業・観光

## 現況と課題

- 2020年に、富谷の成り立ちである「富谷宿」の開宿から400年を迎えます。
- しんまち地区は、かつて奥州街道の宿場町として栄え、その面影を残す歴史的な街並みや、榊流永代神楽、富谷の田植踊等の有形・無形の文化財や歴史・文化資源が多く残され、本市の商業をはじめとする産業の発展を支えてきました。
- しんまち地区の歴史や文化を、多くの市民が共有できる施策や街並みを活かした、観光資源としての活用と更なる活性化が期待されています。
- 市民同士が交流できる市民参加のまつりやイベントを開催していくことに期待が寄せられています。

## 施策目標

## 未来につなぐ“面影”づくり

## 施策方針

- 商店街の活性化や観光振興に向け、しんまち地区の活性化を推進します。
- 富谷の歴史・文化資源や物産・イベントなどを活かした、地域の魅力づくりを推進します。

## 施策内容

## 1 宿場町「富谷」開宿400年記念事業の実施

最重点プロジェクト

- 富谷の歴史や伝統、文化を継承するとともに、かつて宿場町であった富谷の魅力を発信するために、「富谷宿」が開宿して400年目にあたる2020年に記念事業を実施します。

## 2 しんまち地区の街並景観保全と活性化

- しんまち地区の住民と企業、行政とが連携し、歴史を感じさせる街並の保全に取り組むとともに、歴史・文化資源を活用しながら、しんまち地区の活性化を商工会などの関係団体と連携して進めます。

## 3 歴史や観光資源を活用した魅力の発信

- しんまち地区の街並みや有形・無形の文化財などの歴史・文化資源を活用した市内の観光パンフレットや食べ歩きマップなどを作成し、広く発信していきます。
- オリジナルのまつりやイベントを活かし、本市の魅力を広く発信していきます。

## 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 27 年)	目標値 (平成 32 年)
しんまち地区を会場としたイベント来場者数	27,000 人	52,000 人以上



宿場町「富谷」開宿400年をPRするポスター

“とみやシティブランド”で自慢したくなるまちを創ります

### 2-3 観光・地域振興

#### 現況と課題

- 市制施行により、「富谷市」としてのシティブランドの確立が求められています。
- 本市を代表する特産品のブルーベリーは、全国的な認知度は、まだ低いのが現状です。
- ブルーベリーは、本市を代表する特産品としてのブランドイメージの定着が期待されています。
- 積極的なイベントの開催などにより広く情報を発信し、交流人口の増加を図り、賑いと活力のある地域を形成していくことが期待されています。
- 特産品をはじめ、歴史や伝統、地域活動、街並みなど、本市の総合力を活かしてブランドイメージを強化していくことが求められます。
- 定期的なイベントなどの開催による交流人口の拡大のほかに、1年を通して富谷を感じていただける施設、市民にも豊かな時間を継続的に提供することのできる拠点の創出が求められています。

#### 施策目標

“とみやシティブランド”の全国発信にみんなで動くまちづくり

#### 施策方針

- 「スイーツのまち」をシティブランドとして確立し、富谷の魅力を発信していきます。
- 「とみやシティブランド」を確立し、発信していきます。

#### 施策内容

##### 1 とみや国際スイーツ博覧会の継続開催

最重点プロジェクト

- 「とみや国際スイーツ博覧会」の継続的な開催等により、「スイーツのまち」としての新たなシティブランドの確立を図り、本市の魅力を発信するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を推進します。
- 本市の特産品を活かしたスイーツを核としたまちづくりを積極的に進め、「スイーツのまち」としてのシティブランド化に向けた取り組みを推進します。

##### 2 道の駅の整備検討

最重点プロジェクト

- 交流人口の拡大による地域活性化を図りながら、観光客や市民がスイーツを核とした豊かな時間や体験を継続的に享受できる拠点となる、オリジナル道の駅「スイーツの駅」の整備に向けて、規模や建設予定地等の検討をしていきます。

##### 3 とみやシティブランドの確立

- 「スイーツのまち」としてのシティブランドを確立していくほか、新たな特産品づくり、歴史と伝統の面影を残す「宿場町富谷」、子育てや教育・生活環境、協働のまちづくり活動など、本市の魅力「とみやシティブランド」として確立し、全国に発信していく活動を強化していきます。

#### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 31 年)
とみや国際スイーツ博覧会 平成 28 年度から年 1 回開催	—	毎年開催
市内交流人口の拡大	—	10,000 人以上



「スイーツのまち」をシティブランドとして確立し、富谷の魅力を発信していきます



# 安全で自由に移動できる便利なまちを創ります

## 3-1 公共交通

### 現況と課題

- まちづくりアンケートでは、今後の施策として「公共交通の利便性向上」が重要と答える市民の声が最も高い結果となっています。
- 市民の生活実態を踏まえた、全体的な公共交通のあり方を検討する必要があります。
- 平成14年に、交通不便地区の解消などを目的として運行を開始した町民バス（現市民バス）は、現在6路線で運行しています。
- 平成20年度から70歳以上の方、障がいをお持ちの方を、平成21年度からは教育委員会が認めた小学校遠距離通学者を対象に無料乗車証を交付して、利便性の向上に努めてきました。
- さらに利便性の高い市民バスの運行に期待が寄せられています。

### 施策目標

あらゆる立場・世代の方々でも安全で自由に動けるまちづくり

### 施策方針

- 生活圏域の実態を踏まえた公共交通のあり方について検討していきます。
- 市民ニーズに対応した、利便性の高い市民バスの運行を進めます。

### 施策内容

#### 1 公共交通ランドデザインの策定

最重点プロジェクト

- 市制施行後の新しいまちづくりの推進や社会情勢を踏まえ、本市の公共交通体系のあるべき姿を描いた「公共交通ランドデザイン」の策定を目指して、暮らしやすさの一層の向上を図り、持続可能な基幹公共交通の機能強化を図ります。

#### 2 新公共交通システムの技術的検証

最重点プロジェクト

- 仙台市との交通アクセス向上に向けた公共交通のあり方について、新たな公共交通システム導入の可能性をはじめとする段階的な検証や検討を実施しながら、都市・地域総合交通戦略への位置付けを目指します。

#### 3 泉中央への市民バス乗り継ぎ実証運行

最重点プロジェクト

- 本市の基幹公共交通である民間路線バスと市民バスとの結節を図り、泉中央駅との交通の利便性向上に努め、市外からの流入人口の増加や地域の活性化を図りながら、既存バス路線の維持確保や拡充を進め、本格運行を目指して実証運行を実施します。

#### 4 市民バスの充実

- 市民バスアンケート調査や利用者のニーズを踏まえながら地域の課題を整理し、市民の日常生活に必要な移動手段の確保に向けて、利便性の高い市民バスの運行に努め、交流人口拡大の基盤となる、公共交通バスとなるよう目指します。

### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 31 年)
公共交通ランドデザインの策定	未策定	策定済
市民バス年間利用者数	71,962 人	77,000 人



小さな子どもからお年寄りまで幅広く利用され、愛されている市民バス

## 3-2 道路

### 現況と課題

- 産業の振興と企業の誘致を進める本市としては、富谷インターチェンジから東北自動車道への流入流出を可能とする富谷ジャンクションのフル化に向けた取り組みが必要となっています。
- 市内の都市計画道路の多くの部分は、土地区画整理事業などの面的な開発と同時に整備を進めており、着実に市内の幹線道路ネットワークが形成されています。
- 市道については、維持管理費の増加が予想されており、橋梁等の主要構造物や舗装の長寿命化を図るための対策が求められています。
- 通学路となっている路線等の歩行者への配慮が特に必要な道路については、交通安全施設の整備や街灯の設置、側溝の有蓋化等が求められています。

### 施策目標

#### 日常の利便性を安全で快適な道路でつなぐまちづくり

### 施策方針

- 誰もが利用しやすい道路ネットワークの充実・強化を推進します。
- 歩行者や自転車利用者の安全が確保された身近な道路の整備を推進します。

### 施策内容

#### 1 広域幹線道路ネットワークの充実

- 本市を縦貫する国道4号と東北縦貫自動車道、横断する仙台北部道路については、より利便性の高い効率的な仙台都市圏のネットワークの構築に向け、富谷JCTのフルジャンクション化について、引き続き関係機関に働きかけていきます。
- 主要地方道仙台三本木線及び塩釜吉岡線、一般県道西成田宮床線は、国道とともに、周辺市町とをつなぐ交通軸として極めて重要な路線であることから、未改良区間の早期事業化や延伸等について、引き続き関係機関に働きかけていきます。

#### 2 市内幹線道路ネットワークの整備推進

- 周辺市町及び市内各拠点を結ぶ都市計画道路等の市内幹線道路については、周辺土地利用計画と調整を図りながら、交通の円滑化と利便性の向上を目指し、効果的なネットワークの整備、充実を図ります。

#### 3 人や環境に配慮した道づくりの推進

- 身近な生活道路の安全性、利便性、快適性の向上を図るため、歩道のバリアフリー化や道路交通安全環境の充実、道路側溝の有蓋化、適切な除融雪の実施等、人にやさしい道づくりを進めていきます。
- 生活空間に潤いをもたらす道路景観の形成など、道路の多面的機能を十分に活かしながら、環境にも配慮した道づくりを推進します。

#### 4 道路等の適切な維持管理の推進

- 道路については、安全な交通環境を維持するため、常に状況把握に努め、状況に応じた迅速な対応を図るとともに、幹線道路については、路面性状調査等により計画的な補修・修繕を実施し、安全な道路環境を確保していきます。
- 橋梁については、橋梁長寿命化計画に基づき、損傷や劣化が小さいうちから対策を実施する予防保全に努め、ライフサイクルコストの縮減と計画的な修繕を進めながら安全性の確保を図っていきます。

### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値（平成27年）	目標値（平成32年）
幹線道路の移動しやすさに対する市民満足度の向上	45.4%	50.0%
歩行者等の安全な道路通行に対する市民満足度の向上	26.8%	30.0%



第4章

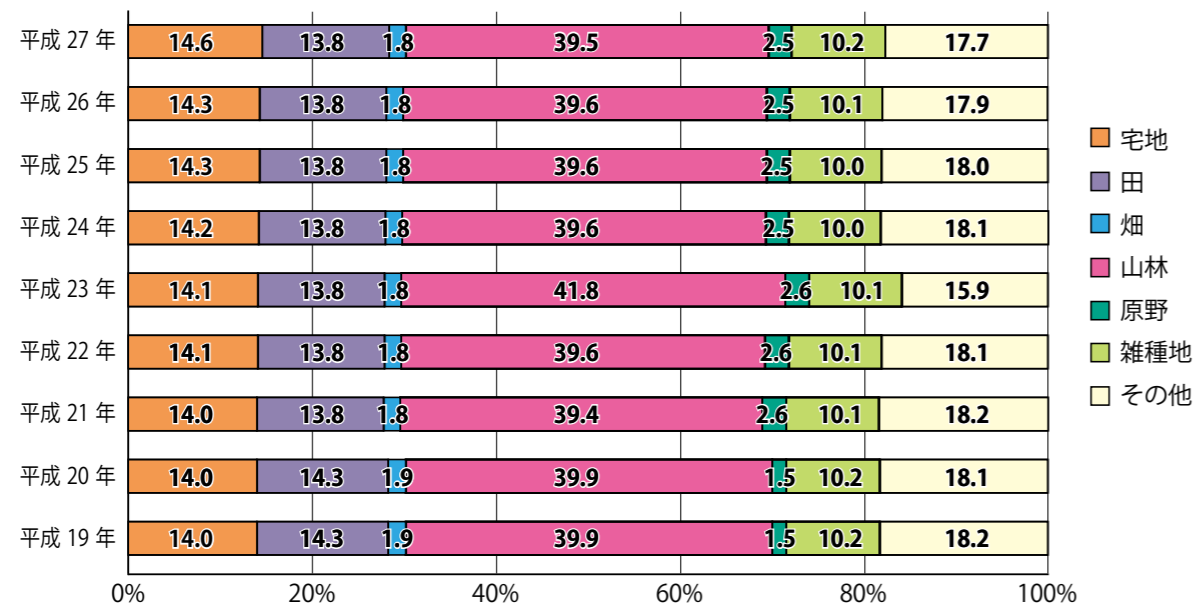
# 住み心地の良さを実感できる豊かなまちを創ります

## 4-1 土地利用

### 現況と課題

- 本市は、北部の竹林川沿いにまとまった農地が広がり、市街地は国道4号及び都市計画道路七北田西成田線に沿って市域の南西部に形成され、東部は森林が主体となっています。
- 地目別の土地利用面積は、市域の約39.5%が山林で、14.6%が宅地、15.6%が農地となっています。
- 本市では、昭和40年代後半頃から大規模な住宅団地の開発が始まり、現在も住宅地としてのニーズは高く、住宅用地の継続的な供給が期待されています。
- 自然環境を保全しながら、計画的でバランスの良い開発整備を進めることが求められています。
- 宮城県の産業集積の推進計画や今後の企業誘致活動に併せて、新たな工業用地や商業用地の造成についても検討していく必要があります。

地目別土地利用面積の割合



資料：固定資産概要調書（税務課）

### 施策目標

豊かな自然を守りバランスの取れたまちづくり

### 施策方針

- 安全・安心に配慮した土地利用を推進します。
- 緑豊かな自然と都市的利用とのバランスが取れた土地利用を推進します。

### 施策内容

#### 1 安全で安心な土地利用の推進

- 自然環境や優良農地の保全などのバランスを図りながら、本市が人口ビジョンに掲げる将来人口（2060年：6万人）を目指し、都市の持続的な発展を推進するため、計画的な土地利用を進めます。
- 長期的視点に立った都市の将来像を明らかにする、都市計画マスタープランの策定に取組みます。

#### 2 良好な景観の形成

- 宅地開発に関しては、良好な景観の形成に努めます。

#### 3 西部地域の土地利用の方向性

- 東北縦貫自動車道の西側の地域については、国道4号を軸とした計画的な市街地の整備を進めます。
- 北部地区の基盤整備された農用地は、優良な農地として保全・利用を図ります。
- 整備が進む市街地には、日常生活の利便性の向上を図る商業施設をバランスよく配置します。
- 国道4号及び仙台北部道路を積極的に活用し、新規工業流通用地等の整備を進めます。
- しんまち地区周辺は、本市の文化・行政などの拠点として、機能の維持・増進を図ります。
- 総合運動公園は、スポーツ施設の中核として、有効な利用を図ります。

### 4 東部地域の土地利用の方向性

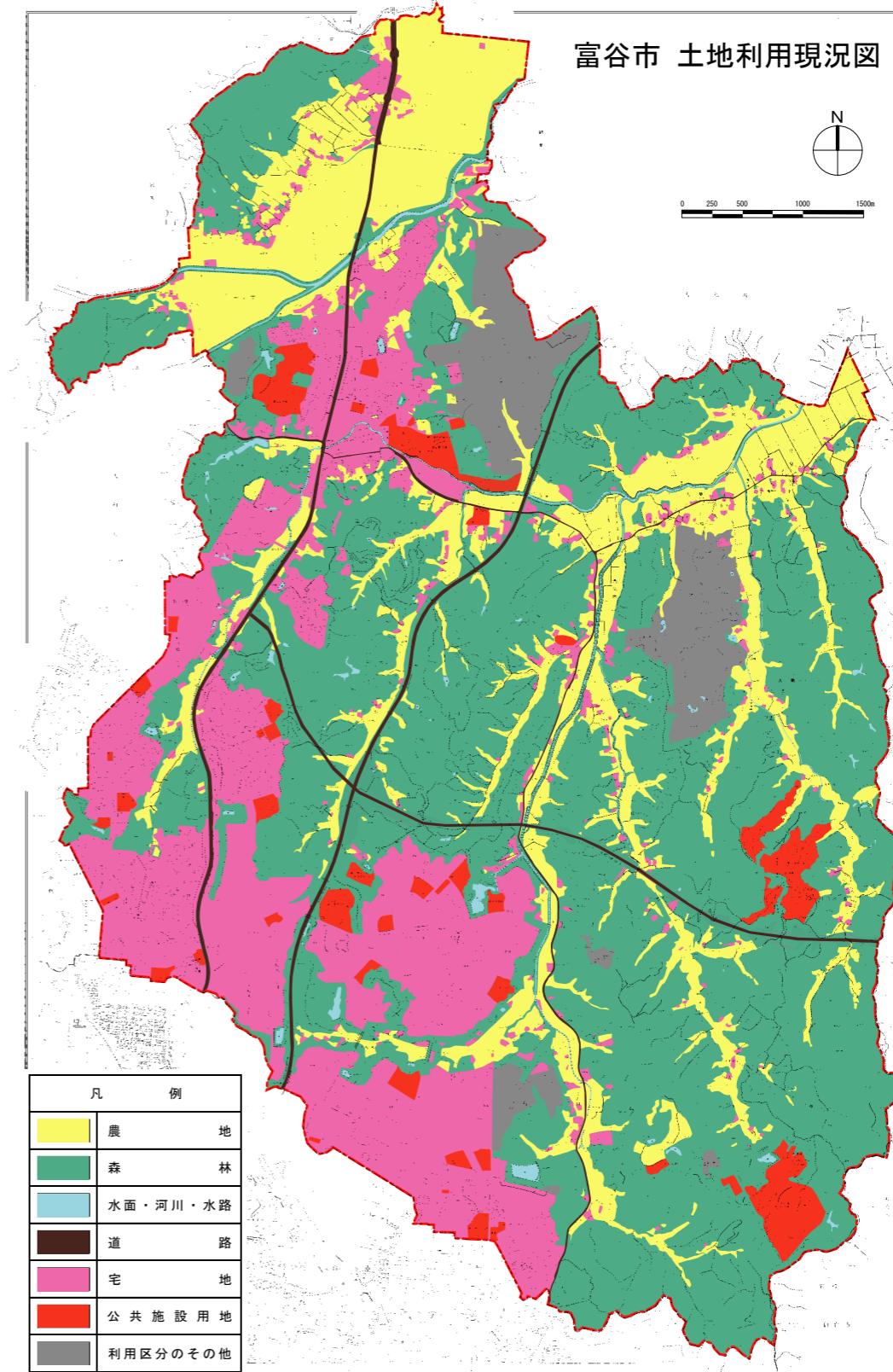
- 東北縦貫自動車道の東側の地域のうち、主要地方道仙台三本木線より東側の地域の山林については、開発を抑制し、保全を図ります。また、主要地方道仙台三本木線の西側の区域は、都市計画道路七北田西成田線及び宮沢根白石線を軸として計画的な市街地の整備を進めます。
- 南部地区の基盤整備された農用地は、優良な農地として保全・利用を図ります。
- 東北縦貫自動車道及び仙台北部道路周辺は、流通業務施設を含む本市の産業の中核となる新規工業用地を主体に、計画的な整備を進めます。
- 大亀山森林公園は、緑豊かな自然環境を適切に保全しながら、レクリエーションなどの拠点として、有効な利用を図ります。

#### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 27 年)	目標値 (平成 32 年)
土地利用のバランスに対する市民満足度の向上	30.3%	35.0%



バランスを考慮し土地利用が図られる市域





## 4-2 住宅・公園・上下水道

## 現況と課題

- 昭和40～50年代に整備された住宅団地においては、住宅や都市施設の老朽化とともに住民の高齢化が急速に進んでおり、安全で快適な居住環境の形成やコミュニティの維持等が求められています。
- 本市には、総合公園、近隣公園、街区公園合わせて84箇所、計64.20ha、市民一人あたり12.26㎡の都市公園が整備されており、市民の身近な憩いの空間となっています。一方で、老朽化が進む都市公園の施設については、効率的で効果的な維持管理が求められています。
- 本市では、漆沢ダムを水源とする県営大崎広域水道用水供給事業及び七ヶ宿ダムを水源とする県営仙南・仙塩広域水道用水供給事業から受水しており、これに合わせて配水施設等の整備を行っています。上水道普及率は、平成10年度以降ほぼ100%と高水準で推移しています。
- 下水道は、市街地及びその周辺集落を公共下水道区域として、富谷市流域関連公共下水道事業の整備推進を図り、区域外については合併処理浄化槽の普及を進めています。下水道の普及率は、平成27年時点で96.5%となっており、水洗化率も平成27年時点で99.8%と高水準で推移しています。
- 上下水道は、市民の暮らしや企業活動にとって必要不可欠なインフラであることから、地震等災害時や緊急事態時の早期復旧や応急体制の整備が求められています。
- 平成26年に総務省から人口3万人以上の地方公共団体について、下水道事業の地方公営企業法適用に向けたロードマップが示されました。本市においても、平成32年4月からの公営企業会計への移行に向け、計画的に準備を進めていく必要があります。
- 人口増加と急激な高齢化とともに、墓地の需要はさらに高まっており、公営墓地の整備に期待が寄せられています。

## 施策目標

## 住み心地の良さを感ずる居住環境を誇れるまちづくり

## 施策方針

- 潤いと安らぎを誇れる、緑豊かな居住環境の創出を図ります。
- 市民や企業等との協働による、快適で魅力的な居住環境の創出を図ります。
- 安全安心な水の安定供給と衛生的な水環境を守ります。

## 施策内容

## 1 利便性の高い良質な住宅地の供給

- 産業立地等に伴う将来的な住宅需要を見据え、緑豊かな自然との調和を図りながら、快適で利便性の高い新たな住宅地の整備に取り組みます。

## 2 快適で魅力的な居住環境の形成

- 安全安心に配慮した身近な生活空間や市民、企業等との協働による潤いのある都市景観の形成など、魅力ある居住環境の整備を進めます。

## 3 公園機能の充実と適切な維持管理

- 環境保全、景観向上、防災対策等の観点から公園機能の充実に努めるとともに、市民の憩いの場や交流の場、健康づくりの場として広く活用されるよう、ニーズに応じた公園や緑地の整備を進めます。
- 既存の公園については、遊具等の施設の補修や更新、樹木の剪定等を計画的に進め、誰もが安全で快適に利用できるよう維持管理に努めます。

## 4 住民協働による公共インフラの維持管理の推進

## 最重点プロジェクト

- 安全安心で、美しい居住環境を維持していくため、道路や公園等の暮らしに身近な公共インフラの効果的な維持管理（点検・通報・清掃・美化活動等）手法として、市民や団体、企業等と行政とが、それぞれの立場で連携して取り組むパートナーシップ体制の構築に取り組みます。

### 5 | 安全で安心な上水道の安定供給

- 飲料水としての水質管理の徹底を図るとともに、上水道の安定供給に向けて適切な水道施設の維持管理に努めます。
- 地震等による被災時や緊急時にも迅速な給水や早期復旧を可能とするよう、給水体制の充実を図ります。
- 飲料水を将来にわたって適切な負担で安定的に供給できるよう、経営や技術の両面において運営基盤の適正化を進めます。
- 今後の人口動向や産業立地等による水需要を勘案した水道水源の確保を図ります。



富谷市と仙台市の境にそびえる給水施設・シンフォニータワー（富谷配水池）

### 6 | 衛生的で環境負荷の少ない排水処理

- 下水道施設の保守点検、老朽管改修等の適切な維持管理により、円滑な排水処理と施設の延命化を進めます。
- 公共下水道処理区域以外の区域については、合併処理浄化槽の普及促進を図り、水洗化率の向上を目指すとともに、衛生環境の一層の向上に努めます。
- 下水道事業の公営企業会計の導入に取り組み、財政状況や資産等の正確な把握により経営の効率化と住民サービスの向上を図ります。
- 地震等による被災時や緊急時にも適切かつ迅速に対応できるよう、関係機関等との連携を図るなど、体制の充実を図ります。

### 7 | 公営墓地の整備検討

最重点プロジェクト

- 人口増加や高齢化に伴い、墓地需要の増加が見込まれることから、市民の意向を勘案しながら、宗教、宗派を問わない公営墓地の整備について積極的に検討します。

### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値（平成27年）	目標値（平成32年）
上水道利用の有収率	86.9%	90.0%
合併処理浄化槽の設置率	68.3%	70.0%



### 4-3 自然環境・公園

#### 現況と課題

- 市域面積 49.18km<sup>2</sup>のうち、約 39.5%にあたる 19.45 km<sup>2</sup>が山林となっていますが、新たな開発により、山林割合は減少する傾向にあります。
- 潤いある生活環境には緑が不可欠であることから、住宅地や公共施設、商業施設や工場等における緑化を推進していく必要があります。
- 緑が持つさまざまな機能を維持するためにも、市民とともに適切に維持管理していくことが求められます。

#### 施策目標

緑豊かな自然環境を守り次世代に継承するまちづくり

#### 施策方針

- 緑豊かな自然環境を保全しながら、積極的に活用します。
- 自然環境を次世代に継承していくため、市民との協働による適切な維持管理に努めます。

#### 施策内容

##### 1 自然環境の適切な保全と活用

- 森林等の豊かな自然環境を活かし、自然とふれあえる場の創出に取り組みながら、適切に保全していきます。
- レクリエーション拠点施設である大亀山森林公園は、豊かな自然との調和を図りながら、園内の環境整備と施設等の適正な維持管理に努め、一層の利用促進を図ります。

##### 2 市民との協働による自然環境の保全と継承

- 河川等の水辺は、生活排水等の流入の抑制やごみの不法投棄の防止を図り、環境保全に努めています。
- 生活に潤いとやすらぎをもたらす水辺や里山など、緑の有する多面的な機能を保全するため、市民との協働による適切な維持管理を進め、豊かな自然環境を次世代に継承していきます。

#### 成果目標

指 標	成果目標	
	基準値 (平成 27 年)	目標値 (平成 32 年)
自然環境に対する市民満足度の向上	65.3%	70.0%



豊かな自然との調和が図られ、ソリ遊びやアスレチックなどが楽しめる大亀山森林公園